常磐毎日新聞

日刊

三月七日夕刊

發行所 常磐毎日新聞社

印刷所 常磐毎日印刷株式會社

天氣豫報
今晩は北西風 晴
明日も北西の風 晴一時曇

地下採掘問題
愈よ市會の問題となる
委員會側から答辯なく
議場の風雲急！

休會明けの平市會はけふ午前十時半より開會、劈頭「鑛業試掘願に關する件」を上提、荒川委員長より委員會の調査研究の結果に基く左記の報告あり

東京市豐島區西巣鴨町杉野周吉より平市地內石炭試掘願出の旨所轄鑛山監督局長より通知ありたる趣を以て本縣より公益上支障の有無に付意見を求められたり、仍て之を調査するに出願區域中舊平窪村に屬する大字中鹽、森の內、大室、鯨岡の地域は概して山林辨地多く人家稀薄なるを以て公益上支障なきものと認めらるゝも「同地內を灌漑する小川江筋は延長六里餘灌漑反別千二百三十四町歩にして重要なる灌漑水路なり地盤の陥没龜裂及び透水等の結果灌漑不能に陥るを慮り江筋流域左右五十間づゝは公益上支障ありと認む」舊平町に屬する地域は人家稠密せる市街なるのみならず市勢の發展に伴ひ逐年各種營造物の增設を見つゝある現況なるを以て本市將來の發展を阻害し且住民の安定を期する所以にあらず從て鑛山監督局に於ても曾て斯種出願に對し舊平町に屬する場所は公益地と認め不許可の處分を爲したる地域にして今日と雖其の事情に何等變化なきは勿論寧ろ公害の程度は擴大すべき狀勢にあり故に本願中舊平町に屬する地域及び「舊平窪村地內小川江筋の左右五十間づゝ」の地域は公益上支障ありと認むるを以て之が答申を爲さんとす

眞つ先きに川崎議員は舊平窪地內の地・採掘に支障なしと認めた理由、其他數件に關して委員會の所見を質したに對し答辯に起つものなく風雲急を示し、野崎議長も數回に亘つて答辯を促したが夫々讓り合つて起たず大嶽委員から答辯者の人選を決定する理由で休議を申出たので晝食喫飯の休憩中適當に答辯者を定むべく一時論戰を停し豫算案に對する總和質問に移り

通告順に依つて吉田(寅)議員登壇、勸業委員の設置、其他土木教育等の諸問題を質し、菅沼市長、伊藤助役、長谷川市視學等より答辯あり

正午休憩、午後一時から再會する事となつたが地下採掘に關しては既に磐城炭礦よりの出願も諮問案として上提されてあり前記杉野周吉氏の出願に係る委員會報告案の動き如何により平市の同問題に關する態度は決定的なものとなる爲め川崎議員の質問に對し委員會側が如何なる打開的答辯を行ふかを注目されて居る

磐中卒業式
榮譽を擔つて
百七十三名巣立つ

磐城中學校の第四十回卒業式は今七日午前十時から同校講堂で擧行、卒業證書を總代松崎惣兵衞君に授與し淺水校長の告諭知事の訓辭(正木磐女校長代讀)清水同窓會長、菅沼平市長の祝辭あり終つて在校生代表四年金山正邦君の答辭、卒業生代表鍵谷健三君の謝辭保護者總代佐々木龍若氏の謝辭等あつて閉式したが卒業生百七十三名中榮ある優等生は左の如くである

▼小野一雄君…內鄉村大字宮字宮澤二會社員雄藏氏の長男で五ケ年間無缺席の精勤者、志望は仙臺高等工業

▼鍵谷健三君…豐間村大字沼之內新街七七農半造氏の三男で五ケ間級長勤續の秀才、志望はハルビン學院

▼鯨岡明君…双葉郡廣野村大字上淺見川字狐石七二官吏恒氏の長男で志望は第二高等學校

▼佐々木清君…泉村大字瀧尻字上谷地三〇會社員隆治氏の長男で既に盛岡高等農林合格

▼下山田民部君…植田町字濱町五農下山田賢藏氏の長男で五ケ年間無缺席、滿鐵に入社大陸で活躍

▼田名網得平君…平市胡麻澤一〇四呉服商申藏氏の二男で五ケ年間無欠席、既に米澤高等工業合格

▼青天目弘君…勿來町大字錦田字田ノ口九八農信治郎氏の二男で志望は第二高等學校

▼星敏之君…湯本町字三函一四〇製板業保三氏二男で五ケ年間無欠席、東京鐵道局に入所

▼松崎惣兵衞君…平市新川町一〇雜貨商長三郎氏の長男で五ケ年間級長勤續、一ケ年精勤の秀才、既に小樽高商合格

尙卒業生の氏名左記の如くである(五十音順)

赤津友三郎 赤津亘 會川公平 相川逵雄 阿部薫 青木伯光 青木政 青木稔 安齋智 石井重一 石井敏之 石川昌之 伊藤源兵衞 伊藤光政 白井正 薄葉重雄 遠藤英夫 遠藤洋之助 岡田藤男 大越仁 大串孝司 大野光男 大平千里 小野一雄 小野勝三 小野繁 小野勝 小野操 小山弘文 鍵谷健三 柏木侃一 金成桂一 金成衞 金子尙平 川上保忠 川島秀夫 菊田浩平 菊池幸雄 木田敦 木田宏 木村重雄 草野正辰 草野良平 鯨岡明 鯨岡道夫 久保田正道 小金森久晴 小沼勇 小林正一 小林亨 小林眞延 齋藤重三 齋藤敬 齋藤卓兒 齋藤恒彥 齋藤喜之 坂本秀雄 坂本裕光 作山三郎 佐々木淸 佐々木高滋 佐々木環 佐藤喜一 佐藤髙 佐藤孝七 佐藤信郎 佐藤春枝 佐藤裕紀 佐藤光雄 志賀信利 志賀泰 柴田讓 淸水重政 下山田民部 白石長雄 白土健 白土浩康 鈴木德 鈴木一郎 鈴木淸 鈴木晉平 鈴木末男 鈴木淸司 鈴木武司 鈴木成二 鈴木英雄 鈴木秀枝 鈴木康之 菅原重夫 先崎定一 相馬司 薗部正雄 髙木四郎 髙木直毅 髙木寬 高階文三 瀨口勝久 竹本守 立花久幸 田名網得平 田部八郎 丹野千文 千葉仁郎 千葉常敬 筒井重工門 鶴田常隆 富岡嶽雄 鳥山良雄 永井博 中島乙彥 中島武彥 青天目弘 新妻賢司 新妻務 西原勝雄 西山章 西山修平 根本勳 根本久 根本昌弘 野川讓 野木明 野木多見夫 野口良光 野村智一 荻原竹夫 箱崎磐根 長谷川八郎 畑谷利雄 半谷正文 比佐公一 肥田木敏夫 平山英夫 星英一 星敏之 堀川重明 松崎彥 松崎惣兵衞 松本周司 松本傳二郎 松本十一 馬目太七 馬目智夫 間宮忠雄 三浦貞美 水野皓市 滿井正備 宮內二郎 宮本重男 武藤義紀 村田文一 村上毅 多悟 村上行 柳沼章 矢代弘之 山田光夫 山本登 吉田悟 吉田博 吉田政雄 吉田耘平 吉野善彌 吉村進 若松康平 若松總一郎 和田啓一 渡邊五郎 渡邊宗二郎 渡邊辰夫 渡邊英雄 渡邊善助

磐中卒業生
志望調べ

(別項)今七日懷しの學窓を巣立つた磐中卒業生百七十三名の志望統計は左の如くである

高等工業學校三七 高等學校二九 陸軍豫科士官學校一二 藥學專門學校六 高等商業學校五 高等農林學校五 秋田鑛山專門學校四 橫濱商業專門學校四 高等師範學校四 海軍兵學校三 商船學校三 師範學校二部三 外國語學校二 醫學專門學校二・ハルビン學院二 日本大學專門部工科二 日本大學商科二 北海道帝國大學豫科一 海軍經理學校一 神宮皇學館一 商科大學專門部一 遞信官吏練習所一 日本大學專門部醫科一 國士舘專門學校一 東北學院一 航空學校一 航空學校一 現役志願一 未定二 家業七 會社一七 官廳五 鐵道四 其他三

青少年雇入制限令に就て

平職業紹介所長 立澤高元

【二】

(二)學校卒業者使用制限令第一條の卒業者にして命號に該當せざるもの(令第二條第一號)之等の者は別に學校卒業者使用制限令に依り其の使用員數に付て厚生大臣の認可を要することとせられておるので本令に依つて其の雇入を制限せないこととせられたのである。

(三)厚生大臣の指定する檢定者は試驗に合格したる者又は厚生大臣の指定する免許を受けたる者(令第二條第三號)厚生大臣の指定する檢定、試驗免許は厚生省告示を以て告示せられてゐる。之等の者は特別の技能を有するものであり、特別の學校を卒業したものと同じく軍需工場等に於ける一般勞務者となることが困難なものであるから特に本令に依る雇入制限の對象から除外せられたのである。

(四)其の他厚生大臣の指定する者(令第二條第四號)此の規定に基き施行規則第一條に依つて左記の者が指定せられ、本令に依る雇入制限の對象から除外せられてゐる。

イ、軍人又は之に準ずべき者(軍屬を含む)として戰鬪其の他の公務に因り傷痍を受け又は疾病に罹りたる者にして其の固定したる症狀恩給法施行令第二十四條、第二十四條の二又は第三十一條に規定する傷病の程度に達するもの傷痍軍人(規則第一條第一號)

ロ、職業紹介所長に於て身體の障碍に因り作業能力著しく劣れるものと認定したる者(規則第一條二號)此の認定は雇傭せらるべき勞務者が受けるのであつて認定を受けるとする者は所定の樣式に依り居住地の所轄職業紹介所長に申請すべきこととせられてゐる(規則第一條第二項)傷痍軍人及作業能力の著しく劣つておるものを本令に依る雇入制限の對象から除外せられたのは之等の者は如何なる事業に於ても進んで雇入れられることが望ましい者であるからである。

三、男子青少年の雇入制限の態樣

男子青少年即ち年齡滿十二歳以上滿三十歳の男子(特に雇入制限の對象から除外せられておるものを除く)の雇入は特に認められた場合の外は之を行ふ事が出來ないこととせられてゐる。即ち男子青少年は左に揭ぐる場合の何れか一つに該當する場合の外は之を雇入ることが出來ないのである(令第三條)

(一)男子青少年の雇傭員數が命令を以て定むる員數に滿たざる場合に於て其の員數に滿つる迄之を雇入る場合(令第三條第一號)命令を以て定むる員數とは昭和十四年十二月三十一日現在に於て雇傭してゐた男子青少年の員數の七割に相當する員數である(規則第二條第一項)即ち昭和十四年十二月三十一日現在に於て雇傭しておつた男子青少年の員數が七割以下に下つた場合に七割に達する迄雇入が出來るのである。換言すれば昭和十四年十二月三十一日現在に雇傭しておつた男子青少年の員數に缺員が生じても直に之を補充することは認められないのであつて其の缺員の數が昭和十四年十二月三十一日現在の雇傭員數の三割以上に達した場合に始めて補充することが出來るのである。

小名濱支局通信

釜戸諏訪神社
裏祭後日物語
(上)

支局長 小野務平

渡邊村釜戸諏訪神社は七年目毎に蜒蛇三里に渡る奴祭で有名であると同時に武神として出征將士の武運長久祈願に其靈驗が顯著である事が有名である、通例でさへ正月四日、七月の二十七日は其參詣者が境內人山を築くのが例である、况んや本年の如く戰地に奮鬪さるゝ出征將兵の多い關係から祈願者が彌が上にも人出を促し其人出數萬人を算するに至つた事に依つて其如何に靈驗が顯著であるかが判るであらう。

即ち舊二十七日(五日)の當時は泉釜戸間の二里內內外の參堂は徒步、自動車等の混雜は言ふまでもない、そんな雜沓の中に參詣を控へて六日即ち裏祭りを狙つて參試を思ひ出つたと云ふのが變りものゝ仕打ちとして許りでなく眞の信仰が玆にありと云ふ寸法で六日午前八時四十分の自動車で釜戸行きを決行した。

泉驛まで來て兼ねて打合せを置いた植田鈴木子が九時十五分の列車で到着の筈であるから待ち合せると鈴木子は即ちスプリングコートで輕裝、降り立てゝ來た、記者の身ごしらへを見て驚天したらしい、それは裏祭りでは自動車の便もないだらうし何れは徒步する外に方法はない地下足袋にゲートルと云ふ裝束、鈴木子のスプリングコートを凌ぐ此方も輕裝中の輕裝で全く鈴木子を裏切つた事幾倍だか判らない。

スッカリ落膽した鈴木子は其裏切つた腹いせとも云ふのであらう、俺は東京下りの大地、主記者は道案內の小作人然たる格だと呵々大笑して居る、さもあるべし地下足袋ゲートルの身仕度に比しては及ぶべくもないから早くも苦悶した結果の放言と評してよからう、風塵を避けて田圃畦畔を通つて堀の內、初田と云ふ順序に畔道を辿つた。

春淺き三月上旬の陽足は暖日和風と云つた形でポカつき流汗亦背を透ふすと云ふ日和である、初田まで來て前村長の永山定秀氏を尋ねた、不幸平行きの爲めに子在嗣子定雄君が叮嚀に應接して呉れた、定雄君の令閨は磐崎村湯長谷東本田屋からの腰入れで勿論記者との親戚關係に在る間柄だ、澁茶一杯位は大手を振つて馳走になれる資格があるので渴した喉を醫し再び參里を行進するのであつた。

酒造從業員
組合が表彰

既報石城酒造組合では六日平稅務署で淸酒持寄研究會を開いたがこの席上社氏組合では左記勤續從業員を表彰した

△五年(平市)山崎元三郎氏方大釜一郎、松本德一氏方畠山權司(高久村)本田佐渡次氏方藤沼馬太郎(勿來町)赤津修一氏方大楠鷹三郎鈴木降市△十年(草野村)豐田吉松氏方渡邊彌忠太(磐崎村、御代武平氏方遠藤福太(平市)馬目玉彌氏方岩崎初義

上小川荻野三男△磐崎高木幸造△赤井大平登△湯本舞木高五郎

航空兵
受驗者

本年施行された海軍志願合格乙種飛行豫科練習生たる航空兵の第二次檢査は來る十四日から十日間霞ケ浦海軍航空隊で行はれるが地方における受檢者は左の如くである

△平市松本三郎、鈴木勇△勿來安島三郎△內鄉寒河江秀雄、高橋四郎△上遠野佐藤良一△

自動車傷害
平市

禰宜町後藤新一(三)は五日午後五時頃石炭滿載のトラックを運轉好間村田中地內を疾走中前方から自轉車で走つて來た同村字川原古河炭礦雜夫猪狩勇さん(三八)を刎ね飛ばし左側肋骨々折の全治三ケ月の傷害を負はせたこと發覺今七日平署の取調べを受けた

愛猫家恐慌
ネコ釣り橫行

平市地方には去月十五日ごろから猫の行方不明となるものが多く愛猫家間に恐慌を來してゐるが右は樂器用(主に三味線)に用ゆる猫皮を盜み去る所謂〃ネコ釣り〃の仕業だらうといはれてゐる、既に市內各家庭から姿を消した猫の數は百頭に近く〃俺のブチがゐない〃〃わたしの家のミチも居ないわ〃といふ騷ぎが毎日のやうにくり返されてゐる

植田校旅行
植田

町菊多實業學校同實踐女學校では四泊五日の旅程で東京、鎌倉方面へ修學旅行を催すことになり今七日出發した

梅の苗木
無償交附
平市農會で

平市農會では十七日市會議事堂で午前評議員會、午後總會を開き十五年度豫算を附議するが總額は三千五百圓で銃後生產擴充に主力を注ぎ二千六百年の記念事業としては梅の苗木を無償で交附將來に備へる筈

泉村の火事
六日

午前零時十分頃泉村字瀧尻鐵業佐藤武方から發火、同家並に非住家一棟を全燒同一時頃鎭火した原因は殘火の不始末で損害は三百圓位

愛知縣出向
磐中

教諭新谷榮氏は六日附愛知縣へ出向を命ぜられた

鰯の煮干
勿來町

國婦關田分會では二十五名宛交替で出動日下鰯の煮干し作業に從事してゐる

勿來町會
勿來町

新年度豫算町會は六日終了したが總額は七萬七千二百三十一圓で前年當初豫算に比べ一割增

家族の寫眞
勿來

町國婦會では出征兵留守家族の元氣な姿をカメラに收め近く前線勇士に發送することになつた

兵事主任會
植田

署管內の兵事主任會議は八日午前九時から同署で開かれる

養蠶の教師
本縣

養蠶教師資格認定試驗は去月二十六、七の兩日縣立蠶業農學校で行はれその結果はこの程發表されたが地方では草野村山下武雄、上遠野村上遠野俊司の兩氏が合格した

平市人事

◎出產

△五町目一一大內近雄氏二男宏二君

△禰宜町七武藤喜悅氏二男親君

△六間門五東條祐英氏二女育子さん

◎婚姻

△仙臺市國分町一二八木正一氏(二八)と古鍛冶町一佐藤セツさん(三二)

◎死亡

△四ツ波字三反田一五三元良氏母山野邊スイさん(九二)

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間「なぜなぜ問答」 解答 西澤勇志智

▼後六、二五 講演「先覺者の養生訓」小澤修造

▼後七、二〇 郷土に寄する言葉 吉井桃磨呂

▼後七、三〇 國民歌謠

▼後七、四〇 浪花節 京山小圓

▼後八、一〇 俚謠

▼後八、三〇 時局談話「金と物から見た現下の經濟」下田將美

▼後九、〇〇 ラヂオ小說「怪談宋公館」中村仲郎ほか

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間 リズムンビ「行進遊戯」 大阪はなびら會

▼前一〇、〇〇 家庭メモ

▼前一〇、二〇 家庭講座 貯蓄の常識「保險と信託」

▼前一一、〇〇 小學生の時間 ラヂオ學藝大會(第一部)北村大榮

▼前一一、二〇 紀元二千六百年國體仁王會 講師齋藤隆現他

▼後〇、〇五 新日本音樂 吉田晴風他

▼後二、〇〇 小學生の時間 ラヂオ學藝大會(第二部)東京コドモ唱歌隊胡蝶座

▼後三、〇〇 小學生の時間 ラヂオ學劇大會(第三部)六局唱歌リレー

▼後六、〇〇 子供の時間 連續劇「たんれん部隊」 大阪放送コドモ會

▼後六、二五 講演「帝國及び列國の陸軍」藤田實彥

▼後七、二〇 郷土に寄する言葉 和田山蘭

▼後七、三〇 國民歌謠

▼後七、四〇 中支より

▼後八、〇〇 管絃樂 日本放送交響樂團

▼後八、四〇 ラヂオ小說「怪談宋公館」中村仲郎他

▼後九、一〇 時事解說

郷土に寄する言葉
(午後七時廿分放送)

吉井桃磨呂（宮城縣出身）

拙速主義より熟慮斷行の氣質、これが東北人氣質の姿である、此の氣質は彼の伊達政宗公の御生涯によく現れてゐる、その他支倉六右衞門、林子平、高野長英の如き歷史的偉人は何れも同じ型の士であり、近くは原敬、高橋是淸、齋藤實と云ふ如き方々は何れも東北人の典型とも申すべき質實剛健の精神の持主であります、然しこゝに注意せねばならぬことは質實剛健も一歩を誤るといはゆる鈍重に墮して物判り惡いと云ふ批評や誤解を招くことにもなるのである此點からも鄕土の皆さんの自重を切に御願ひする次第である

氣象技術官採用

小名濱測候所ニテ氣象技術官拾數名採用ス

初任給參拾五圓以上外ニ每月十圓前後ノ收入アリ

特典 中央氣象臺氣象技術官養成所專修科へ現俸ノ儘無試驗入學ノ資格ヲ與フ

資格 滿二十六歳ニシテ中學校亦ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

右希望者ハ履歷書二通 健康診斷書等ヲ相添へ來ル三月三十一日迄ニ採用方申込マル可シ

履歷書並ニ健康診斷書ハ

小名濱測候所長 田代武四郎 宛テナル事

松井勇劍傳

第十九回
高橋監物の恢復

殿樣の儀の一段、茲に於て役の沙汰と云ふ事になりましたが[illegible]役目も監物の沙汰を無理と云ふものは只一人もない監物、[illegible]に似氣なき卑怯未練、改易は相當なれど、退散いたした市兵衞を[illegible]して殿樣を[illegible]にすと云ふこと何んなものであらうかと、殿[illegible]の末、監物に改易、改めて知行は百石を減じて二百石を[illegible]九郎兵衞に下される、又市兵衞は監物と[illegible]たればとて充分改めずして監物を[illegible]剩つさへ私の[illegible]にて[illegible]いたしたるは上を恐れざる所爲、從つて暫時お暇下しおかれると云ふ事になりました。[illegible]と云ふことは難しいもので[illegible]の[illegible]を過ぎると[illegible]を[illegible]します。斯くすれば双方に[illegible]もつれ合ひもない。又市兵衞のお

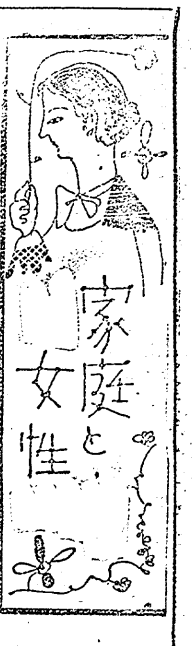
上の首尾、これはどうだ」 九「[illegible]には悉く御立腹、兄上が其の事で落命したと思召されたから[illegible]改易百石減ぜられ二百石は手前相續仰せ付けられた。[illegible]あの時兄上存命とあつたなれば切腹は[illegible]れぬ所であつたらう」 監「ウム、[illegible]が[illegible]先に[illegible]上げたる三百石[illegible]一婦人の爲め百石減ぜられたとは不[illegible]至極。先祖に對しても申譯ない、して相手の松井市兵衞は如何いたした」 九「市兵衞は[illegible]云ふと[illegible]沙汰あつた由[illegible]承つたよと殿に[illegible]して[illegible]を取らせ[illegible]然し[illegible]共の[illegible]ひにて暫時の間[illegible]暇と相成つた」 監「フム、そうか、それでは當地には居らぬのだな」 九其の時、九郎兵衞一[illegible]のり出して聲をひそめ 九「然し兄上只一つ此處に聞き[illegible]し難き一事がござる。と申すは[illegible]主水は、此の度の市兵衞の[illegible]に[illegible]し其[illegible]のうちに娘を市兵衞の女房に[illegible]にいたして何れかへ出

殿、永のお暇と云ふのでなく、[illegible]お暇と云ふんですから、お呼び戻しになる望みがございます。」

所が高橋の方は仲間[illegible]は[illegible]して困りましたが監物の方は未だ虫の息がございましたから屋敷へ連れ戻り醫者を迎へて[illegible]手當を加へますと、當座は[illegible]ないと思はれたが、命冥加な男で、段々と癒つて參り十日餘りも經つと[illegible]と[illegible]快いたしました。何れも驚いた。中にも弟の九郎兵衞、其處は兄弟の[illegible]愛で大層[illegible]んで、或る日兄監物の枕邊へ參り

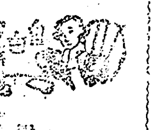
九「兄上如何でござる」 監「オ、九郎兵衞か、昨日あたりから痛みも除れて、今日は大層樂になつた。此[illegible]は飛んだ御厄介をかけて誠に濟まない」 九「イヤ兄上の[illegible]で濟むも濟まぬと云ふ事はないが、此の度のことは兄上にも似氣ない不始末でござつた」 監「そう云はれては面目なくて穴へも這入りたいくらい、早く其の後の[illegible]をきゝたいと思ふてゐたが……[illegible]か聞くものはないか」 九「今下郎は[illegible]ひに出してしまつたから聞く者とては誰も居らぬ」[illegible]

立つさせたと云ふことである。[illegible]よりこれは[illegible]に[illegible]して困る[illegible]であるが、[illegible]なる者より[illegible]つた。然し兄上がそれほどまでに[illegible]心いたし困つたその娘を、人もあろうに市兵衞と[illegible]り合す許りか其の夜のうちに祝言をさせて夫婦にいたしたとは、餘りに我[illegible]兄弟へ[illegible]の[illegible]、殘念と存じ居つた」 監「フーム、殘念だがそれも致し方ない、して見れば[illegible]快しても當山形の[illegible]下に面は出せぬ、此の身か」 九「左れば兄上は何國まで市兵衞のために[illegible]されたと云ふ風にして一先づ當地を退散されるより致し方ありますまい」 監「イヤ下郎の口に乘せられて飛んだ[illegible]敗をいたしたものだ。然し今更悔いても及ばず、殘念なれど退散いたす事とーやう」 監物は[illegible]件をいたして困りましたが一ケ月ほどのうちにスッカリ以前の身體と相成りましたから、弟九郎兵衞[illegible]の[illegible]形を立退きます。家中の者も監物の[illegible]式もない[illegible]だから、それまでは命拾ひして何地かへ立退いたのであらう。彼の武士なれば[illegible]ひ[illegible]快しても[illegible]致す所、能くまで命を[illegible]は[illegible]れた[illegible]と[illegible]はね[illegible]たなかつた。



品質の統制

大岩勇代



婦人の服飾さまざい・乾物等の貨物をある市場でずつと長く間に合せてゐたが「新しいです、調合です」といふ市場の言葉にもかゝわらず、決してさうでない品物を買はされたことが度々あつた。

土のまみれた[illegible]から見ては分らないので、靴つて腹をむいてみると、傷んでゐて間に合はず、困つたこともあつた。

ところが近頃ある人のすゝめである組合に入つたが、このものは値段は、幾分高めのやうであるが、たとへばラヂオで發表せる品物のものが多いが、古いもの傷んだもののない何時も安心して買物ができる。

殊に最近は物價の中には公設の價格が上げてゐたから ただ小賣商人の取引のなものがないとはいへないと思ふ。價格の統制はうれしいが、そこには又暗取引が形を變へて、質の低下と云ふことになつて現れてゐることにも當局は眼を光らせて頂きたい。

新聞のゴシップに出たお酒の中を金魚がおよぐとかこれに類する質の低下を物語るものは枚擧に遑がないこれでは國民の生活水準が下らざるを得ないと思ふ。

安價と質と相まつた統制をして頂きたく、それにはまず市民の經濟と商業の繋りのある公設市場を、信頼のできるものにして頂きたく「市場の物なら安心してたべられる」といふやうにして頂きたい。

……小ばなし……

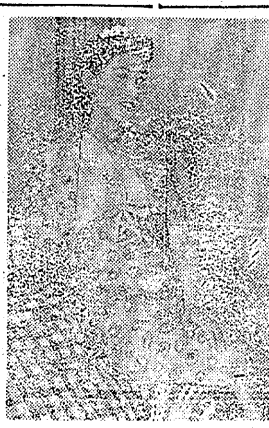
毎日外を歩く度毎に何かひろふのをたのしみにしてゐた慾ばり男今日は何もひろへずボンヤリしてゐるところを危く自動車にひかれ損なつて

「ア、けふは命びろひした」

婦人服には柄物を
地味な色は却つて贅澤
色彩こそ心の慰安です

經濟的見地から華美な布地をカーキ色にすることに反對はできぬとしても、色の趣味的な意味から、黒や紺その他の渋い地に染めることを奨勵することは當を得た方法ではないと思ひます。無地物即ち經濟といふ考へはあやまつたものでよごれなども無地より柄物の方が目立ちませんし、安い

無地の不統一な布地を無地に染めることはその布地の一番の缺點をあらはします。特に事務服として紺や黒の服をきれいに着ることは普通にぜいたくなものとされてゐます。而既のカーキ色も土に親する保護色以外には、色からくる快感といふものは感じられません服裝といふものがいくらでも奥を表はすものであり、その美しさをわれ／＼が愛好するとしたなら沈鬱な無地色を無理強ひに着るより、ゆるされる範圍で美しいと思ふものをたのしく大事に着ることが、より實用價値をもつものとして効果的なわけです。こゝに柄物の特徴的な意味と、趣味の一致點が見出されますが、原則として男物の柄物を愛するといふ場合には、無地物にどんな色をえらび、その服された色をいかにくみ合せるかといふ新しい問題がおこつてきますそこで主調色と付屬色といふ二つの系統をえらんで見ませう主調色は背服、オーバーなどの大物に使ひ、地味なあきないブルー、紺茶などと、それに現在ある色糸をむさうさに混紡した霜降りなどを使ひ、付屬色はハデな色にしてネクタイなどで色彩感を出しますが男子服はそれでがまんするとしても



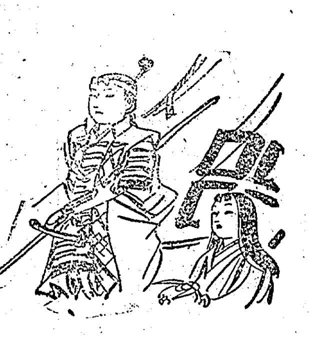
最近の婦人服は材料を少なく使つて効果をあげるといふ經濟にムダのない背時服の單一化となつてきました。この單一な形に變化をあたへるのは柄よりほかにないわけです。この點婦人服にはぜひ柄物が必要ですし、またそれを補ふ意味で無地は今後ますます多くなると思はれます。今日の服裝は時局に適應して地味な色を主としてゐますが、地味な色を多くすることは、變化を高價な布地に求めるといふぜいたくさを助長することになり、今までのやうに安い布地を色彩と形で濟るといふ時局向きの準備に逆な結果をあたへる傾向になりはせぬかと考へられます。事變下だといふ消極的な氣持に潤ひをあたへるものとしてむしろある程度のハデな色といふものはそれを着る婦人にも、見る男子側にもゆるされていゝことではないかと思ひます。色彩がわれわれの精神生活にあたへる影響の價値といふものを、色の調和に常つて十分考へてほしいものです。

ご存じですか？

かもじの洗ひ方
振りたつ採んだりせぬこと

かもじの洗ひ方ですが、まづ洗ふ前に十分とかします。そして洗器に石鹸をとかしまして、かもじの根の方を左手にもち、型がみだれないやうにして静かにかもじをねかします。それを目のあらいくしでとかしながら洗ふのです。先からしづかに一寸くらいづゝとかして次第に上の方へくしをすゝめて行きます、液を手でふりかけてはとかし、くしをもつてぬれた手でかもじを上からにぎりながらしごいて汚れをおしだします。これをしづかにくり返してください。根けを手で持つたまゝで。振り物なのはふつたりもんだりすることで、一寸でもこれをしますと毛がこんがらかつてしまつておへなくなります。汚れがおちたら、濯ぎも前の要領で行ひます。濯すのは、つりさげたまゝ風のあたらない所で自然に乾し、和紙紙にくるんでしまひます。

日本婦德とその眞價



重成の妻

武士道と婦道の完全な一體

勇士烈婦の好配偶

[illegible]の大阪[illegible]においての[illegible]、木村重成は若冠にしてまた[illegible]たが、その際に[illegible]が頻[illegible]んも、木村長門守重成を[illegible]間見、青柳といふ乙女は、その端なる姿に强く重成を慕ひ焦れ、遂に戀こがれて病に臥するに至つ[illegible]青柳は當時十七歲、[illegible]も劣らぬ美しさ、また[illegible]にも妙にして、容色婢妍無双の麗色であつた、この乙女は終にたえがたくなつたかある時千萬の思ひを短ざくに託してこれを重成の許に送つた、曰く

戀化て絶ゆる命はさもあらばあれ
さてもあはれと云ふ人もがな

重成直ちに返して

冬枯れの柳は人の心をも
春待ちてこそ結び留むらめ

かくして二人は互の心を通したのであつたが、やがて結婚し穏なく青柳は懐妊した、然るに間もなく大阪夏の陣の事があつたそして重成は討死したのであつた重成はこれより先き、かつて翌朝の命をうけて、使して家康の陣に婦和の約に臨んだ事があつた、その時彼は年若くして然も威儀肖すべからず、辞服して馬に乗り、[illegible]の家康の陣營に歸り、[illegible]を下りた、關東の諸將、重成を指したが重成は會釋もせず入つて行つた、永井直勝これを迎けて下座に座らせようとしたが重成かへり見もせず[illegible]み

賴の旨を叙し命を果してから後退きていんぎんに禮をした其にのぞんでも毅然として家康をして讃歎せしめたばかりでなく、翌へ家康の陣営を取つて深つたほどの豪気夫であつた、その討死に臨んでも兜に香を焚きこめ、忍ぶの緒を結んで端を切り、謹て覺悟の討死をしたのであつた、この悲壯比にして優雅なる死に對し、妻青柳は翌年一周忌を營み終つて、持佛堂で心閑かに

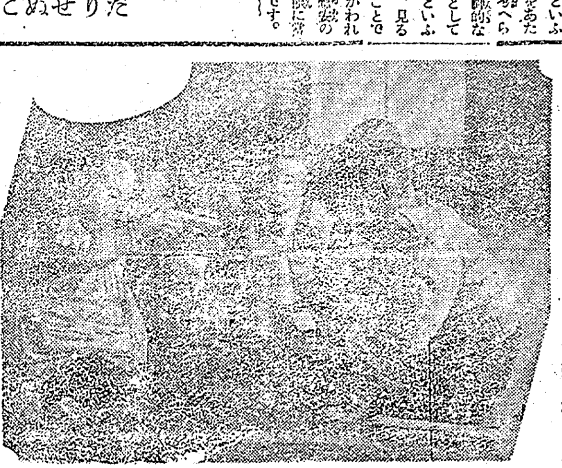
自害を遂げたのであつた、勇士に中世武士道の華を見る趣きこの二人、いはば勇士烈婦の好配偶と云ふべく、武士道と婦道の完全なる一體をこゝに見出すのである

子供は未知數
不用意のお小言は大禁物
小さい心を亂すな

◇小學校の兒童中にはいはゆる優れてゐるといはれるのがありますがそれは、必ずしもその力が多くないのでもなく未だ十分にあらはれても來ないだけです。小學校で出來がよくなかつた子供が、中學の三年あたりから、スバラしい成績を示した例があり、また、特に専門教育の時代に入つて、はじめてその力を發揮した人もあります

◇親が猶師も緩和からした子供を、とかく見くびる傾があるが、大いに反省しなければならない。多くの兄弟の中に、ただ一人出來のよくないのがあつたりする時など、不用意に親かその子のみを大勢の兄弟の面前で悪くいふなどは、まつたく以てのほかの事です。また中にはいはゆる早熟で普通兒よりもすぐれてゐるやうに見えるものもあるが、成長するにつれて、數外成績の思はしくないものもすこぶる多い。また往々音樂などの方面で、眞にすぐれた素質を早くからあらはすものがあります、これはいゝ意味での早熟で決して心配する必要がなく、早くから特別の教育を施すのが効果的です

◇さて一般に子供の素質を保護し、發揮させるために重要なことは、第一に健康をよくすることである。從來知られてゐる運動や、榮養や、睡眠、もくよく等のほかに、好き日光と空氣の中に生活させることが最も效果的です。第二に精神の衛生では、刺戟過多や過勞に陷らせないこと、殊に、感情――情緒の生活を健全にすることとが最も肝要です、子供を怒らせたり、焦らせたり、不平をもたせたり、心配させたりすることが何よりも禁物である



謄寫版を綺麗に刷り上げるには？
かうしたコツがある

どちらの事務所でも謄寫版はちよいちよい使ふものですが、彼ひなれない方が刷りますと、文字や線がはつきり出ないとか、同て一枚の紙の中でも濃く太い部分とボンやりした部分が斑で出たり兎角消くなり勝ちです。これを防ぐには最近インクがローラーに平均に渡るやう板の上でよく圏を伸げしてから原紙に縦横に十分インクを塗りつけ、次に用紙に取掛かるとき紙がわら半紙のやうな吸收の良い紙の場合は、インクはローラーに多く溶けてもきれいに上るのですが、もしも西洋半紙とか模造の様に表面がなめらかでインクの吸收のおそいものゝ時には、ローラーへ溶けるインクを少くして、そのかわり力を多くかけて刷りますと、線が細くてはつきりときれいに出ます。

もしローラーにインクをつけすぎた時は、新聞紙等の上で二、三回轉がしてすわせてから刷りますと丁度よい工合になります。

その他用紙は一時にたくさんつみ重ねて刷ると、これも[illegible]となりますから一、二十枚宛は[illegible]た位に止めるとよいのです。

時局小說

驀進

（禁上演映畫化）

士別樹

北野傳画

第九十二回　別れ（二）

間もなく順子は戻つて來て

「好枝さん、矢張り今夜の十一時二十分の急行が好いわ、それになさいね」

順子にさう云はれても、好枝には店へ行かなければ、店員の都合がつかないのであつた。

「でもわたし、お店へ行つて來なければ駄目なのよ」

「お金？　お金ならわたし持つてゐるからいゝわ、でも暫らく逢へないわねえ、こんなに仲好くして來たのに――」

「順子さん、もう何も云はないで――」

「ごめんなさい、貴女は泣いてゐる時ではなかつたんだわねえ」

さうは云つても、これが別れだと思ふと、どつちからともなく溢れ泣いてしまふのであつた。

時計はもう九時を過ぎてゐた。

好枝が便所へ行つた間に、順子は細々とした身の廻りの物や、手土産などを、仲見世で買ひ整へて來た。

それを部屋の中へ擴げながら順子は、いつか中野へ誘ひに行けと云つて好枝が、はげましてくれた時のことを思ひ出してゐた、そしてあの時、出してくれた汚れた十圓紙幣を握らせてくれたことを思ひ出した。

「いゝ方だつたわ――」好枝に涙を見せてはいけないと思つて、こらへてゐたのが、ひとりになると急に淋しくなつて、順子は黙つたまゝで頬を傳ひ落ちる涙をふこうともしないでゐた。

彼女は思ひ出したやうに立上つて、押入れを開け、トランクの中から、一冊のノートを出して開いた。その中から十圓紙幣を五枚出しながら、何時か貯つた十圓を五十圓にして返せることが有難かつたが、これがあの人の結婚のお祝ひなら、と思つた、それを想像しながら用意して置いた金が、不意の旅におくらなければならないのが殘念でならなかつた。

好枝が戻つて來ると、順子は鞄の中へ、自分の着物を二、三枚入れてやり

「これしか私には出來ないのよ、泣かないでね」

そして五十圓を、ソツと好枝の前へ出した。

「順子さん、ほんとに濟みませんわ、この御恩は、わたし一生忘れない」

「そんな他人行儀なこと止しませうよ、わたくしこそ、今までどんなにあなたに救へられたか知れないわ、これからひとりになるかと思ふと――でもまた歸つて來て下さいね」

「えゝ、何時か來るわ、必ず來るわ今までは何と云つても樂しい生活だつたわねえ」

二人はもうゆつくり話してゐる時間もないので、直ぐ驛に出て乘つた。

電車に乘ると二人は並んで腰かけたが、順子も好枝も黙つてゐた、窓を去來する數々の想ひ出で、お互に涙が出さうになつてゐた。

上野へ着くと切符を買つても二人は待合室へは入らず、驛口の隅の方に身を寄せた。

「わたし想ひ出すわ、上野さんを送りに貴女と二人で駈けつけた時のことを」

順子がしみじみと言つた。

「ほんとうねえ、丁度この逆だつたわねえ、あの時の貴女の氣持、わたしにはとても辛かつたわ」

あの時のことを心に浮べながら二人は手を握つた。發車間際の驛ひであつた。

やがて擴聲器から、青森行の改札の始まることを知らせると、人の波が急に流れ始めた。二人は急いで改札口の方へ歩きながらも、ともすれば胸が熱くなつて涙が今にも溢れ出さうになるのを堪へてゐた。

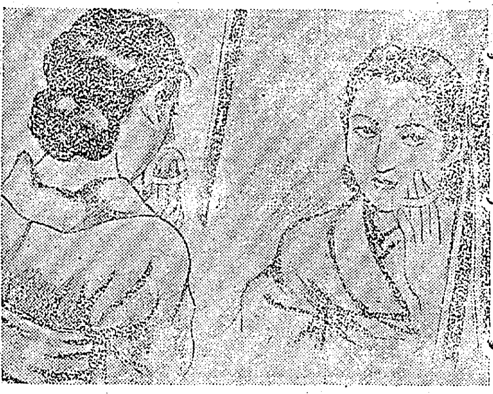
列車は割合に空いてゐたので、順子は荷物を網棚に上げてやつたり、辨當を買つてやつたり色々と氣を付けた。

やがて發車を知らせるベルが鳴り渡つたので順子はホームへ降りた。

「順子さん――」

「好枝さん――」

二人は何も云ふことが出來なかつた。顔をあげて正視することも出來なかつた。二人は同じやうにハンカチで顔を蔽つた。



毎度有難う御座います
パン食の普及時代
……自慢の食パン召し上がれ！……
榮養パン　バターロール
甘コッペ　チョコレートロール
野菜サラダパン　クリームロール
カレーパン・カツパン・黒パン
ベーカリー　東京堂
平市撥櫛小路（電話一〇八番）

生徒募集
一、内容ノ充實ト教授ノ徹底
一、各種受驗難關突破成績優秀
一、學費ノ低廉ト古教科書斡旋
一、講堂完成ト六學級編成
一、實用科目（簿記珠算）特設
第一學年二百名
㊟新學期四月五日
磐城青年學校
平市字六間門

開店披露
吳服類
洋品類
必需品
私儀吉田屋吳服店在店中は御厚情御引立を蒙り深く御禮申上ます今般別家いたしまして三月一日より開業いたしましたから何卒御聲援を御願いたします
平市四丁目郵便局前
山吉商店
店主　吉田政之助
電　二六八

謹啓寒氣殊に甚だ凌ぎ難く御座候　特別の御ひいきを蒙り深謝申上候　永年營業に協同致し御引立に預り申し候　政之助事今回四丁目局前に獨立開店致す事に相成申候間何卒弊店同様御引立願上度目下の時節柄日頃の御厚情に甘え特に懇願申上る次第に御座候　先ずは御願迄　敬具
昭和十五年二月
平市鍛冶町
合名會社　吉田屋吳服店
吉田由三郎

專門
花柳病科
婦人科
產科
▼入院隨意
◎見習看護婦募集
井坂醫院
平市田町　電話五五九番

お醬油はヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品
福島縣平市
釀造元
鹽屋
電話一〇七番
明治生命磐城代理店
山崎與三郎

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下　電話六七四番

洋品物は！
玉屋
平市田町
電六五六

洋酒と喫茶
麗人のサービス
氣分本位の店
タヒラ・ギンザ通り
グリル　バツカス
電七〇二番

生徒募集
今、入學手續の好時期……希望者は來りて成績優秀なる學校へ
人的資源の確保から……今國家は產婆と看護婦を非常に要求して居ります。皆樣早く學んで其の要望を滿してやつて下さい。
それには斷然合格率百パーセントの定評ある
南町の產婆看護婦學校へ
尚ほ本校卒業者にして日本赤十字社より今事變に名譽の應召を受け中、南、北支或は病院船に、二十有餘名今尚志願者採用
平產婆看護婦學校
校長　清野キヨ子
（電話三〇七番）

開院
外科一般　內臓外科
整形外科　肛門病科
性病科　レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長　上田耕作
電話　二一九番

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地、を傷めず
▼つけておくだけで洗へるおちのよい
㊫マルミ粉末石鹼
製造元　平市材木町十一番地
電話（呼）四〇八番

眞冬の味覺
（とんかつ專門の店）
興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します
平市仲田町（電話四六五）
かの家